

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 2月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	
法人名	株式会社 ハピネライフケア
事業所名	グループホーム はあとピア
所在地	鳥取県米子市久米町200 (電話) 0859-68-3768
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル207
訪問調査日	平成19年2月23日

【情報提供票より】 (平成 19年 2月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	6 人 常勤 6人, 非常勤 人, 常勤換算 5.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	70,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり			1,000 円

(4) 利用者の概要 (2月 2日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	4	要介護2	3			
要介護3	2	要介護4	0			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	87歳	最低	79歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	米子中海病院・高島病院・彦名クリニック・灘尾歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

米子城跡のすぐ近くにあり、交通の便が良い割りに静かな立地環境である。1階部分がデイサービス、2階でショートステイ・小規模多機能となっていて、3階がグループホームである。利用者はデイサービスやショートステイの利用などから、この施設に馴染みとなってグループホームに入居されているので、職員とも顔馴染みで安心して暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の掲示については改善されていなかったが、危険物(洗剤等)の保管場所は改善されていた。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は、すぐ改善するよう話し合い実行されている。(細かな改善点は実行できるが、運営者もまき込まないと実行できない点等はそのままになっており、今後の検討課題と思われる。)
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の開催はとても有効という自己評価の記述もある通り、良い結果が生じつつある。(公民館での介護教室開催等)
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族面会時にはよく説明等がされているが、あまり苦情・不安の汲み取りはない。家族アンケートでも説明は受けたが意見を述べる場面は少ないという意見もあり、今後の工夫に期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周辺に民家がなく立地条件からは難しいと思われるが、運営推進会議の開催により支援センターや民生委員との交流が出来始めているので、期待できる。デイサービス、ショートステイ、利用家族との交流も活かされている。

2. 調 査 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での安心した暮らしを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで確認し、急がせない介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に民家がないがホームのすぐ前に御大師さんがあり、お参りする人との交流がある。公民館での介護教室を開く等、地域の人々との交流に努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘された危険物の保管は、安全な所に保管がなされていた。 外部評価の結果は、すぐに改善する様に実行されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かして介護教室も開催することが出来、とても有効であり参考になるとの認識がある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の市町村との連携が確認出来なかった。	○	市町村担当者への働きかけや市町村職員や利用者との交流等も期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に口頭で利用者の様子等を伝えている。金銭についての報告は定期的ではない。	○	家族の来訪時はゆっくり話をする事が出来ない場合もあるため、手紙など簡単な報告でも良いので個別の報告がなされる事を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への利用者及び家族の出席等は確認出来た。説明はなされているが、家族の意見を聞く機会が少ない様に思われた。家族アンケート等の意見が運営に反映されている事が確認出来なかった。	○	家族に対する説明だけではなく、家族の意見や苦情を聞き、それらを反映した介護や運営を目指して頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みの職員のケアで利用者の方の落ち着きが保たれていると感じられた。職員の努力や配慮によるところが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数がギリギリの状態で開催されていて、法人外での研修にはあまり出られない状態とみられた。	○	もっと日常的に研修に出かけられる機会を確保する必要がある。その為の人員の確保が先ず必要と思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	マッチング相互研修に参加され、同業者との交流でとても参考になったとの事。	○	夜勤勤務の人の研修も望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス、ショートステイの利用等から馴染みとなってグループホームに入居される利用者の方が多く、家族の方も本人も安心しておられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方がいずれも非常に穏やかに過ごしておられる。職員との関係が上手くいっていることが基本にあると感じられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で常に話し相手となり、希望や暮らし方の意向などを汲み取り把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	話し合いは行われているが、その事が介護計画に反映された具体的な事例は確認できなかった。	○	本人や家族、関係者との話し合いで気づいた事を反映した介護計画の作成が求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状の変化に対してケアの変更など、努力はしておられる。	○	介護計画を見直しする時に具現化して頂きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所としての多種類のサービスを受ける事ではなく、本人・家族の状況に柔軟に対応しホーム全体ではなく、個別対応や支援が十分ではない。	○	買物・外食・リハビリ等の行事はあるが、全体としての外出ではなく個人的な外出希望への対応や支援についても努力して頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望で受診をしている。特別な変化がなければ、2週間に1回の往診を受けながら必要時に受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の希望など話し合いはしているが、具体的に職員や管理者の話し合いの場は持たれていない。	○	特別養護老人ホームや病院に移送するのではなく、本人や家族の希望があればターミナルケアも出来る取り組みを考えていかれると良いのではないのでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーは尊重されているが、個人情報保護の理解や情報の取り扱いが十分ではない。	○	情報を提供して頂く為の本人・家族の同意書などの管理をより厳格にされると良いのではないのでしょうか。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、自室で食事をした方には食事を運んでいた。又、喫煙・飲酒も希望に応じて支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆さん楽しそうに食べておられた。準備を手伝う方もおられたが、殆んど職員の方が忙しく働いておられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金と入浴が決められている。	○	一人ひとりの希望に合わせた支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	囲碁を楽しむ方、喫煙をし車椅子でデイサービスの方に帰る方、楽しみごとの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	殆んどが事業所の中で過ごされている。外出は月に数回の買物や外食、レクリエーションのみである。	○	もう少し外出の回数を多くしてみられては如何でしょうか。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3階がグループホームで、エレベーターの使用は殆んど利用者の方一人ではされていない。ベランダへ出るドアチェーンが施錠されている事がある。	○	建物全体の玄関のドアに鍵はされていないが、エレベーターを使用しないというのは実質の施錠である。ベランダへ出るドアのチェーンは外しておいて欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練がされているが、災害時の備蓄は用意されていない。	○	災害時に備えて備蓄の準備や地域の協力への働きかけに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量の記録は個人ファイルに記録されている。身体が少し不自由な方もおられたが補助具は使わずに支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の食堂等、居心ちの良い空間がある。採光も良く、臭い等もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具等も持ち込まれており、居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。		

※  は、重点項目。